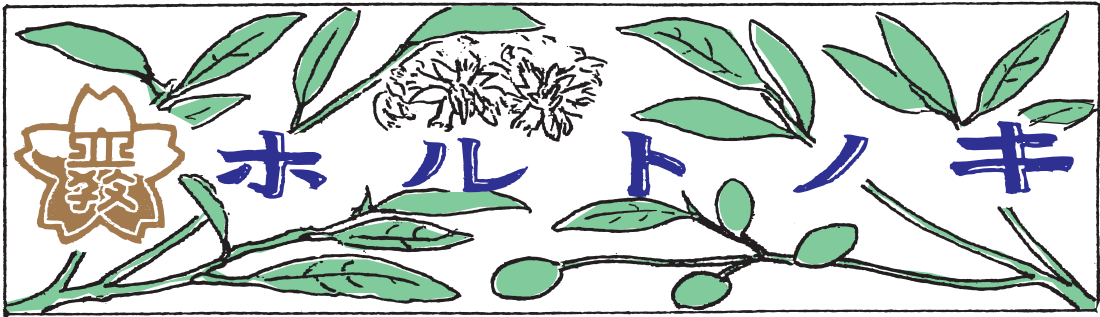




小さな雨宿り

2026 年度 学友会入部届 集計

		中1	中2	中3	中学 合計	高1	高2	高3	高校 合計	総部 員数	中学部長／キャプテン	中学副部長／副キャプテン	中学マネージャー	高校部長／キャプテン	高校副部長／副キャプテン	高校マネージャー
学芸部	英語部	0	1	4	5	2	0	0	2	7	(中高一緒に活動)			高1-1 松崎 日恒		
	演劇部	1	0	3	4	4	0	2	6	10	(中高一緒に活動)			高3-2 水上 嘉		
	科学部	3	2	3	8	3	0	2	5	13	中3-3 荒井 辰王			高3-4 金 結		
	写真部	10	1	7	18	10	14	5	29	47	(中高一緒に活動)			高2-4 阿部 辰仁	高3-1 金井 惺優 高2-3 沼田 麗慈	
	吹奏楽部	6	13	7	26	13	13	13	39	65	中3-1 窪田 嘉祐 中3-4 吉羽 賢大			高2-3 荒井 莊太郎	高2-1 河村 友雅 高2-1 藪内 統士	
	数理研究部	10	10	6	26	4	8	7	19	45		中3-4 久保淳之介		高3-1 吉田 大航	高3-1 大野 翔惟	高3-2 山崎 圭人
	生物部	5	3	3	11	0	1	2	3	14	中3-3 島 壮知郎			高3-3 平田 涼馬	高3-1 山下 尚真	高2-2 井上 慶丸
	聖ポーロ会	0	0	0	0	2	2	4	8	8						
	地歴研究部	1	8	0	9	3	0	10	13	22	(中高一緒に活動)			高3-1 真弓 晃暉	高3-1 塩野誠之祐 高3-3 星 俊彰	
	鉄道研究部	2	7	3	12	11	3	2	16	28	(中高一緒に活動)			高3-1 荻野 達	高1-2 庵 貴博	高2-4 石井 悠太
	天文部	2	5	0	7	4	5	1	10	17	(中高一緒に活動)			高3-4 山本 賢		
	美術部	5	7	3	15	1	11	5	17	32	(中高一緒に活動)			高3-3 千葉 椋平	高3-2 徳澤 肇 高3-3 小林 京平	
	文芸部	0	0	4	4	0	1	2	3	7	(中高一緒に活動)			高3-4 金 結	高2-3 笹野 遥人 高3-1 塩野誠之祐	
	放送研究部	4	4	5	13	2	0	7	9	22	(中高一緒に活動)			高3-4 石井 宏武		
	クワイアー	1	2	6	9	7	8	3	18	27			(中高一緒に活動)	高2-2 川澄 駿也		
	合計(A)	50	63	54	167	66	66	65	197	364						
運動部	(アコライト)	2	1	0	3	4	1	1	6	9	(中高一緒に活動)			高2-4 小杉 礼紀	高3-3 和田 篤泰	
	剣道部	9	0	2	11	2	4	1	7	18	中3-4 泉谷 涼太			高3-3 高橋 秀星		
	サッカー部	15	12	15	42	13	8	8	29	71	中3-4 鈴木 太陽	中3-1 秋元 環希	中3-1 濱野 朋人	高3-2 永登 啓太	高3-4 三沢 開 高2-3 松本 光樹	高2-3 庚塚 啓太
	山岳スキー部	4	4	5	13	2	4	7	13	26	中3-3 三栖 颯真	中3-3 福田隆多朗	中3-1 大原 丈	高3-3 的野 悠大	高3-4 中山 晃輔	高3-4 矢嶋 透大
	水泳部	7	5	11	23	4	15	6	25	48	中3-3 鶴川 悠生	中3-3 新井 奏	中3-1 青山 不二	高3-1 森 義樹	高3-4 長尾竜之介	高3-3 小杉 慶人
	卓球部	11	16	6	33	8	10	0	18	51	中3-4 伊藤 壮汰	中3-2 中川 玲 中3-4 直原 光		高2-3 安田 創矢	高2-3 川本 匠悟	高2-2 長谷川雅人
	庭球部	9	14	15	38	18	8	10	36	74	中3-1 大竹 龍臣	中3-3 小田垣遥大	中3-2 近藤 迅	高3-2 岡崎 大河	高3-2 青山 世那	高3-2 高山幸太郎 高3-2 小森 裕馬
	バスケットボール部	16	22	26	64	7	16	9	32	96	中3-2 江原 康介 中3-4 中村 悠人	中3-1 雨宮 瑠己 中3-1 川瀬 皓大	中3-3 上田 絢仁 中3-3 松田 泰知	高3-2 遠藤 怜	高3-2 小野 凌平	高3-4 佐々木健志
	野球部	29	18	15	62	15	11	10	36	98	中3-1 安藤 悠人	中3-1 橋本 陸 中3-2 出原 優仁		高3-1 田知 隼人		
	陸上競技部	8	9	6	23	11	7	14	32	55	中3-1 行廣 駿太	中3-1 佐藤 凛之介	中3-1 岩久 凱音	高3-3 小島 璃大	高3-3 山口 真旺	高3-4 平井 一真
	釣り同好会	5	10	13	28	5	2	7	14	42	(中高一緒に活動)			高3-4 田崎 創大		
	合計(B)	113	112	122	347	87	90	82	259	606						
	総計	163	175	176	514	153	156	147	456	970						

※兼部の生徒も含まれます。なお、三役の呼称は、部・会により異なります。

＋ 今月の聖句

「もう少し」やってみる

マタイによる福音書 5章 38〜41節

「あなたがたも聞いているとおり、『目には目を、歯には歯を』と言われている。しかし、私は言っておく。悪人に手向かってはならない。誰かがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。あなたを徴用して一ミリオン行けと命じる者がいれば、一緒に二ミリオン行きなさい。」

現代の私たちは、昔よりもはるかに豊かな物質的環境の中で生活しています。しかしその一方で、精神的には疲れやすく、不安を抱えたり、無力感を覚えたりする人が増えているとも言われます。その理由の一つとして、今日の多くの人間関係が損得関係や因果関係に偏りすぎていることがあるのではないかと思います。自分にとって得か損か、自分が与えた分だけ返ってくるのか、原因と結果がはつきりしているのか――そのような基準で人との関係を判断してしまうのです。もちろん、このような関係は社会を成り立たせるために必要なものでもあります。しかし、人がそのような関係の中だけで生きるようになると、絶えず自分を計算し、他人と比較するようになります。その結果、無力感や欠乏感、そして将来への不安がますます大きくなってしまします。

一方で、宗教、特にキリスト教は、そのような計算を超えた生き方を語ります。それは「もう少し」やってみる生き方です。もう少し理解してみる。もう少し待ってみる。もう少し分かち合ってみる。もう少し赦してみる。もう少し与え、もう少し損を引き受けてみることであります。キリスト教は、このような「もう少し」の生き方の中で、人は不思議にも新しい意欲と充実感、そして平安を見いだすことができると語ります。計算を超えた関係の中でこそ、私たちは天とつながる本来の自分自身の姿を発見することができるのです。

学校の規則や日程から少し離れることのできる夏休みを迎えるにあたり、立教の皆さんもぜひ一度、「もう少し」やってみてください。その経験を通して、皆さんが人生に向かう新たな意欲と充実感、そして平安を得ることができるよう祈ります。

(チャプレン 李 相寅)

中学一年便り

共に生きる

中学校生活初めての一学期が終了しました。
四月の入学当初は緊張した様子だった生徒たちも、今ではクラスや部活動にも慣れ、仲間と協力しながら学校生活を送る姿が見られるようになりました。
まだ「数学」を「算数」と言ってしまうあどけなさがありますが、学習面では新しい教科や授業スタイルに挑戦し、生活面では時間を意識して行動する力が少しずつ身につけてきました。
そして、五月には新入生キャンプがありました。第一分団と第二分団の二クラスずつに分かれ、キャンプに臨みました。私は両方の分団に引率として行きましたが、どちらも大きく成長した印象を持ちました。特に、班での行動やそれぞれの役割を全うすること、自分が良ければいいのではなく、相手に興味を

持ち、相手の気持ちを考える姿勢。まさしく本校の教育目標である「共に生きる」の体現であると感じました。
さて、いよいよ夏休みです。夏休みは普段できないことに挑戦できる貴重な期間です。部活動や習い事に打ち込むことはもちろん、読書や家族との時間、自分の興味のあることへの挑戦など、有意義な時間を過ごしてほしいと思います。
一方で、生活リズムが乱れやすい時期でもあります。規則正しい生活を心掛け、事故やけが、SNS等のトラブルには十分注意してください。また、課題についても計画的に取り組み、新学期を迎えられるようにしましょう。
充実した夏休みを過ごしてください。
(後藤啓太)

高校一年便り

『偶然?』いや『必然』

私は、よく街中で知人と出会う。電車、カフェ、旅行先の空港、思いがけないところで出会う。大学生時代に鎌倉デートをしていたら、道端でばったり両親と遭遇した。(どこに出かけるか伝えていないのに!) 周りの人からは「縁がある人だね」と言われる。それは偶発的なもののように見えるが、実は私自身が必然的なものに近づける行動をしている。日頃から「人の顔を伺い、よく観察する」私の癖が「知人を見つけ、出会う機会を逃さない」という必然の結果を引き寄せたのだ。物事の事象は、必然的になる条件が重なり合った結果であると考え

る。
私はこの考え方をするようになってから、とても生きやすくなった。成功と失敗には、必ずそれぞれの結果を引き寄せた要

中学二年便り

言葉とは何か

人類は七百万年前に出現してから現在に至るまでに、言語を用いて生活するようになった。これにより、人間同士の意思疎通が可能となり、情報伝達をしたり、思考を表現したりできるようになった。今や世界には七千種類ほどの言語があるとされる。言語が人間社会の発展において必要不可欠な存在であったことは言うまでもない。
一方で、言葉に表せない感情が湧き上がった経験はあるだろうか。目標を達成したとき、綺麗な景色を見たとき、大切な人との別れ……。私自身にもそのような経験はいくつかある。内側から生じる溢れるような感情は、言葉で到底表現できるものではなく、言葉のもつ力の偉さをもどかしを感じる。ある意味では、言葉のつくる枠の中に分類したくないのかもしれない。

高校二年便り

日本の夏、聖書の夏

日本において夏といえば海や山、入道雲、蚊取り線香の煙がたなびく縁側など、そんなイメージが思い浮かぶでしょう。もっとも最近では「酷暑日」なる言葉が登場するほど暑さになる日々が続き、情緒もなにもあったもんじゃない! という風潮も無きにしも非ず。皆さん熱中症にはくれぐれもお気をつけを。

とこころ変わって聖書において夏はどんな季節として登場しているかという、夏は収穫の季節として登場します。これは聖書が書かれた地域が小麦の文化圏であることに由来しています。そもそも実は夏休みという制度自体、学校に通う子どもたちが収穫の手伝いに参加するため、小麦の収穫のシーズンに合わせて休みを取ったことが始まりとも言われています。聖書の

中学三年便り

自分の限界を自分で決めるな

中学三年生が始まって、三ヶ月が過ぎようとしています。校外学習があり、楽しい思い出ができた時期でもあります。部活動に關しても大きな節目を迎えながらも、これまでの実力を発揮できる貴重な学年でもあります。

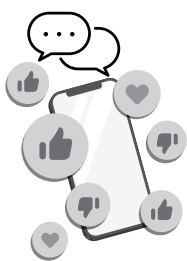
どのようなイメージを想像して、中学三年生が始まったのでしょうか。学習内容も二年生までとひと味違い、真剣に真面目に取り組まないとどうにもならなくなり始めるのもこの時期です。君たちが想像する以上にハードな一年間が始まったと感じている人も多いでしょう。
中学三年生という年代は人生の中で最も感受性が豊かで、柔軟に物事を考えることができるだけでなく、どんな吸収できる最高の年代です。
最後にニイチエは「高く登り

高校三年便り

あいだにあるもの

礼拝時に宣言(?) したとおり、昨年度の終わりに自動車普通免許を取得した。が、未だに。ひとりで運転するには至っていない。運転は確かにできるが、後方への駐車ができない。細かなことを言えば、ほかの車が来てしまうかもしれないのに、悠長に何回も切り返して駐車をする勇気がでない。「運転の仕方を知っている」と「ひとりで運転ができる」のあいだには何があるのか。

たとえば、憲法の条文について説明ができることと、日常生活で他者の権利を尊重して行動できることの間には大きな乖離がある。ニュートンの運動方程式を唱えられることと、身の回りの現象にどんな力が働いているのかと考えられることにも、何か隔たりがありそうだ。「知っている」と「できる」



(宇津木春菜)



(内田芳宏)

のあいだには、「経験」という橋がある。私には、見知らぬ道路で運転する、助手席の家族に頼らず全て自分だけの判断で運転をする、多くの「経験」が必要だ。
夏が明ければ、正課の授業があるのは、たったの三か月間。そこではみんなの学びは終わる、訳ではない。これまでたくさん培った「知っている」ことがみんなの中にはあるはずだ。それを少しでも「経験」という橋を渡って、「できる」ことに近づけていく。卒業論文の執筆もこれに近いものがある。「知っている」「ことの羅列は、研究とは言い難い。どんな橋を渡れば、「できる」に近づけるのだろう。
高校三年生という、エネルギーにあふれる今。みんなはどんな橋を選び取りたい?
(正村多佳子)